

報道関係各位

2019年1月31日

2019年3月期第3四半期決算(IFRS)を発表

- 国内事業の回復により増収、最終利益黒字化
- 新経営体制の下、優先分野の見直しや中期経営計画のさらなる発展に向けたプロセスを推進

株式会社 LIXIL グループ (以下 LIXIL グループ) は本日、2019年3月期第3四半期の決算を発表しました。

LIXIL グループ 会長兼 CEO 潮田洋一郎のコメント

「上期は、国内における新取引制度浸透までの期間のもたつきによる悪影響、自然災害による経済活動の停滞、一部原材料の高騰、さらにイタリア子会社 Permasteelisa の株式譲渡が承認されなかった等の結果、大幅に業績は計画を下回りました。第3四半期途中で経営チームを刷新し、国内営業を守りから攻めに転換しました。製造業は売上が改善されれば原価率が下がるため、利益は上昇します。特に国内アルミ建材事業の売上回復が利益の改善に繋がり、LIXIL グループ全体で前年同期比で増収、最終利益が黒字化しました。新たな経営体制下で順調なスタートを切ることができました」

LIXIL グループ COO 山梨広一のコメント

「LIXIL グループが持続的に成長し、収益力を高めていくためには、当社が持つ多様性を最大限に生かすことが重要です。当社を取り巻く環境の変化は著しく、そのスピードが加速しています。こうした中で、国内外の各事業の責任者を含めた一つのチームを作り、中期経営計画の見直しを進めています。効果的な戦略は改善を加えながら継続し、また必要な優先順位の見直しを行なっています。さらに、新たな成長機会を生み出す取り組みを始動させ、次のステージの LIXIL グループの新しい計画を策定し、発表準備を進めます」

■ 決算の概要

売上収益

第3四半期(3カ月)の売上収益は、前年同期比3%増の4,930億円、9か月累計では、前年同期比1%増の1兆3,812億円となりました。日本市場では上期に自然災害の影響により需要が大きく落ち込んだものの、第3四半期における建材需要の増加を受け、国内事業が回復し、増収となりました。また、第3四半期は、リフォーム需要が堅調に推移したことから、LIXIL Housing Technology (LHT) 事業、流通・小売り事業(D&R)、住宅・サービス事業等(H&S)は増収、LIXIL Water Technology (LWT) 事業の売上収益は、ほぼ前年並みで推移しました。

海外事業の売上収益に関しては、第3四半期(3カ月)は前年同水準、9か月累計では微増となりました。地域別に見ると、アジア太平洋地域では特に中国でLWT事業の売上が増加し、実質ベースで前年同期比10%増となりました。LWT事業の売上収益は、北米地域では実質ベースで前年同期比2%増、欧州地域では3%増、中東地域でも第3四半期(3カ月)ではプラスに転じました。

事業利益^{※1}

第3四半期(3カ月)の事業利益は、前年同期から45億円減の234億円、9カ月累計では、前年同期から314億円減少し、371億円となりました。事業利益は、修正後の通期業績予想(2018年10月22日公表)に対する進捗率は82.5%となっており、計画達成に向けてさらなるコスト削減を進めていきます。

第3四半期(3カ月)における各セグメントの事業利益率は、特にLHT、D&R、H&Sにおいて、上期より改善しました。一方、LWTでは、販管費削減や粗利の改善を図ったものの、原材料高や海外での先行投資の影響が上回り、事業利益率が低下しました。また、LIXIL Building Technology(LBT)事業では、北米における工事コストの増加により事業利益が減少しました。

最終利益^{※2}

LIXILグループの最終利益は、第3四半期(9カ月累計)で21億円と、修正後の通期予想を上回ったものの、事業利益の減少やPermasteelisaに関する会計処理の変更による影響を受け、前年同期から365億円減少しました。

※1 IFRSの事業利益は、日本会計基準(JGAAP)の営業利益に相当。

※2 親会社の所有者に帰属する四半期利益。

■ 第3四半期ビジネスハイライト

- 上期に自然災害が相次いで発生した日本では、リフォーム需要が伸び、エクステリア商品に加え、内窓、玄関ドアといった高断熱商品の売上増加が、LHT事業の復調を後押ししました。引き続き、「リクシル PATTO リフォーム」の推進をはじめとするリフォーム施策を今後も強化していきます。
- VR・ARなどの最新デジタル技術を活用した、デジタル施設「LIXIL Digital Studio GINZA」を銀座に開設しました。お客様に新たな形で商品やリフォームの魅力を伝えていきます。
- LWTの海外事業に関しては、地域やブランドの枠を超えたシナジーが売上につながっており、第3四半期(9カ月累計)では売上成長の58%がシナジー商品・新規事業領域によるものでした。
- ユーザー視点に立った開発を強化するため、新たに上海にR&D拠点を開設しました。INAX、GROHE、American Standard、LIXILといったLIXILグループがアジアで展開する全ての水まわりブランドを網羅するアジアの研究開発拠点となります。
- LIXILグループは、持続可能な開発目標(SDGs)推進本部が主催する第2回「ジャパンSDGsアワード」にてSDGs推進副本部長(外務大臣)賞を受賞し、コーポレート・レスポンスィビリティ分野における取り組みが評価されました。加えて、国際的な非営利団体CDPが実施する水資源管理に関する調査において、最高評価の「ウォーター2018 Aリスト企業」に選定されました。

2019年3月期第3四半期 累計業績

(単位:億円)

売上収益	事業利益	事業利益率
LIXIL Water Technology (LWT)		
6,205 (+1%)	461 (-22%)	7.4% (-2.2pt)
LIXIL Housing Technology (LHT)		
4,049 (0%)	160 (-38%)	4.0% (-2.4pt)
LIXIL Building Technology (LBT)		
2,024 (2%)	-81 -	- -
流通・小売り事業 (D&R)		
1,360 (1.4%)	76 (5%)	5.6% (+0.2pt)
住宅・サービス事業等(H&S)		
410 (+4%)	26 (+20%)	6.3% (+0.9pt)

- 【関連資料】

>2019年3月期第3四半期決算
説明資料



>2019年3月期第3四半期決算短信

The image is a thumbnail of a financial statement summary document. It features the LIXIL logo at the top left and contains various tables and text blocks, typical of a financial summary report.

■LIXILについて

LIXILは、世界中の誰もが願う豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。ものづくりの伝統を礎に、INAX、GROHE、American Standard、TOSTEMをはじめとする数々の製品ブランドを通して、世界をリードする技術やイノベーションで、人びとのより良い暮らしに貢献しています。現在70,000人超の従業員を擁し、世界150カ国以上で事業を展開するLIXILは、生活者の視点に立った製品を提供することで、毎日世界で10億人以上の人びとの暮らしを支えています。

LIXILなどのブランドを展開する、株式会社LIXILグループ（証券コード: 5938）は、2018年3月期に1兆6,648億円の連結売上高を計上しています。

LIXILについて：www.lixil.com/jp、<https://www.facebook.com/lixilcorporation/>